

各 位

会 社 名 GMO TECHホールディングス株式会社  
代表者名 代表取締役社長CEO 鈴木明人  
(コード：415A 東証グロース)  
問合せ先 取締役管理本部長 田中誠  
(TEL：03-5489-6370)

## AI時代に向けた事業方針転換について ～広告・メディア事業からAI SaaS事業へ転換～

GMOインターネットグループのGMO TECHホールディングス株式会社(代表取締役社長CEO:鈴木 明人以下、GMO TECHホールディングス)は、2026年5月14日(木)、生成AIの急速な普及による市場環境の変化を踏まえ、従来の広告・メディアを中心とした事業構造から、AIを活用したSaaS<sup>(※1)</sup>事業へと重点を移行する方針を決定しました。

今回の事業方針転換は、AI時代における持続的な競争優位性の確立を目的としています。企業の業務フローの中核を担う「基盤型SaaS」の開発を通じ、売上や業務効率の向上につながる価値提供を目指します。

(※1) SaaS (Software as a Service)とは、ソフトウェアをインターネット経由で提供するサービス形態で、利用者は自社でシステムを保有せずに利用できる仕組みを指します。

AI時代に向けた事業方針転換を実施

GMO TECH HD

広告・メディア事業からAI SaaS 事業へ転換

#### 注 1. セグメント情報の取扱いについて

今回の事業方針転換に伴う報告セグメントの変更はございません。新方針に基づく組織再編や管理体制の変更に応じたセグメント区分の見直しについては、来期以降の反映を検討しております。

#### 注 2. 事業計画等について

本件は中長期的な戦略の方向性を示すものであり、現時点で公表済みの「中期経営計画」および「事業計画及び成長可能性に関する事項」の数値目標や内容を直ちに変更するものではございません。今後、進捗に応じて修正が必要と判断した場合には、速やかにお知らせいたします。

### 【背景】

近年、生成 AI の進化により、ユーザーの情報収集や意思決定のプロセスは大きく変化しています。検索行動の変化や、AI による情報提示の高度化に伴い、従来のインターネット広告やメディアの役割は改めて問い直されています。

こうした環境変化の中で、広告運用を中心としたフロービジネスは、不確実性や外部環境への依存度が高く、持続的な成長の観点から課題も顕在化しています。

一方、日本国内におけるクラウドサービス市場は拡大を続けており、企業によるクラウドサービスの利用率も上昇しています。全社利用と一部利用を合わせた利用率は、2024 年時点で 80.6% に上ります。国内のパブリッククラウドサービス市場は、2029 年には 8 兆 8,164 億円規模まで成長すると予測されており、業務運営や顧客接点を支える領域を中心に、SaaS をはじめとするクラウド型サービスの需要拡大が見込まれています。<sup>(※2)</sup>

GMO TECH ホールディングスはこれらを踏まえ、AI 時代において持続的な競争優位性を確立するため、事業構造の転換を行うものです。

(※2) 令和 7 年版 情報通信白書 | 総務省

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r07/html/nd111210.html>

### 【新方針の概要】

GMO TECH ホールディングスは今後、AI を活用した SaaS 事業を中核とし、業務の中心で機能するプロダクトの構築を目指します。

昨今、SaaS 市場では単機能ツールの乱立やコモディティ化が進み、継続的な価値提供が難しくなっています。こうした中、AI が業務やデータと連携しながら機能する「AI 時代の SaaS」への転換を進めてまいります。

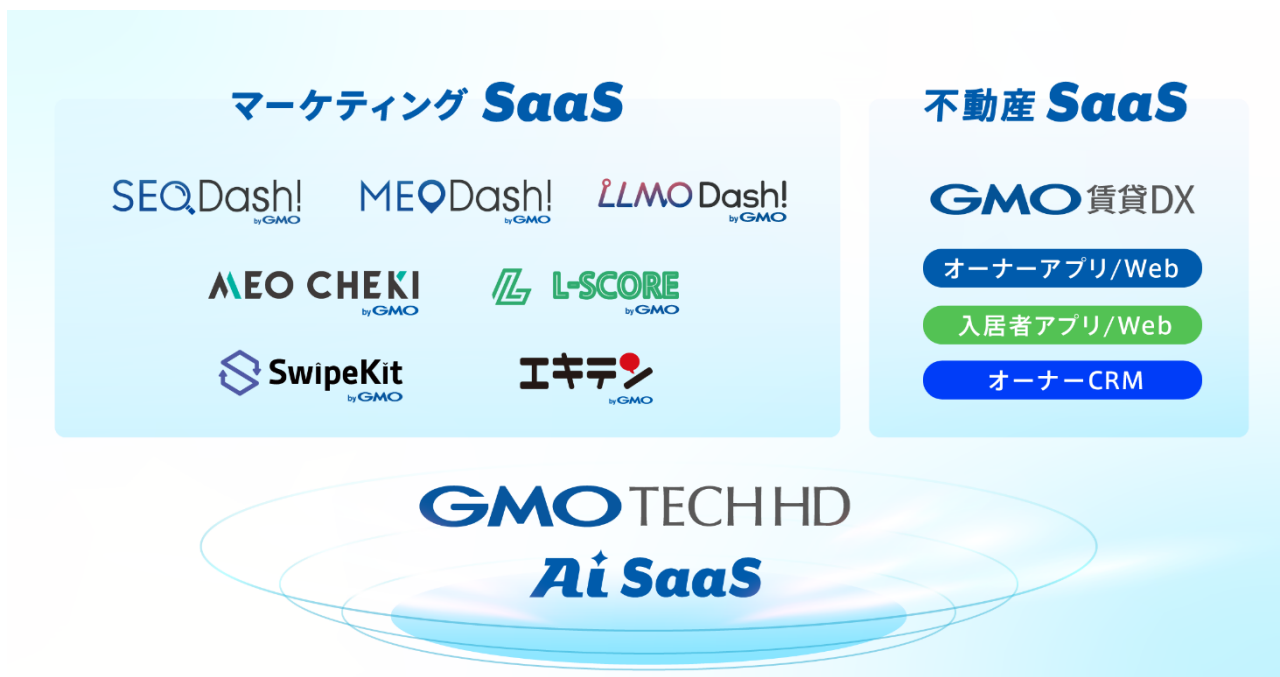
AI や外部システムとの連携性・拡張性を重視した設計思想のもと、業務フローの中心に位置し、複数の機能・データ・AI を接続できるプロダクトの開発に注力します。単一機能を提供するだけでなく、複数のデータや AI を横断的に活用できるプロダクトとして展開してまいります。

## 【具体的な取り組み】

### ■既存領域の SaaS 化・高度化

これまで培ってきた以下の領域について、AI との接続性や拡張性を重視した SaaS へと進化させ、データ資産や運用ノウハウを活かしながら、プロダクトとしての提供価値を高めてまいります。

- マーケティング SaaS 領域 (SEO、MEO、店舗予約管理、LINE 効果分析、スワイプ型 LP)
- 不動産 DX SaaS 領域 (オーナー／入居者アプリ、オーナーCRM など)



主な SaaS サービスの詳細については、以下のページをご覧ください。

▶ <https://hd.gmotech.jp/service/>

### ■新規 SaaS プロダクトの創出

AI 時代における業務課題や顧客接点の変化に対応するため、新たな SaaS プロダクトの開発を推進します。これにより、企業の成長を支える基盤となるサービスの創出に取り組んでまいります。

### ■ストック型ビジネスの拡大

SaaS 事業への転換により、継続収益モデル(ストック型収益)の拡大を図り、安定的かつ持続的な事業成長を実現します。

## 【今後について】

GMO TECH ホールディングスは、AI と SaaS を軸とした事業構造への転換を通じて、「成果を生み続ける仕組み」を提供する企業として進化してまいります。企業の成長に対し、一過性ではなく継続的に価値を提供することで、AI 時代における新たなスタンダードの確立を目指します。

### 【GMO TECH ホールディングス 代表取締役社長 CEO 鈴木 明人 コメント】

生成 AI の進化により、ビジネスの前提は大きく変わり始めています。当社はこれを機に、事業のあり方を見直し、AI を活用した SaaS 事業への転換を決断しました。

AI は、業務やデータと結びつくことで真価を発揮します。当社はこれまでの知見を活かし、AI が継続的に価値を発揮できる仕組みを提供することで、お客様の成長を支える基盤としての役割を担ってまいります。



GMO TECH ホールディングス株式会社  
代表取締役社長 CEO  
鈴木 明人

### 【GMO TECH ホールディングスについて】

## GMO TECH HD

GMO TECH ホールディングスは、インターネット上の集客サービスを展開する GMO TECH 株式会社と、インターネットメディア事業を展開する GMO デザインワン株式会社の共同持株会社として、2025 年 10 月 1 日に設立され、東京証券取引所グロース市場に上場しました。

日本の代表的なグローバルテックカンパニーになることを目指し、傘下グループ会社の企業価値の最大化を図るとともに、AI をはじめとする先端テクノロジーを活用した IT サービスの提供を通じて、国内外のお客様の生産性向上およびビジネスの発展に貢献してまいります。

以 上